

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs		
花き生産実習		○白田 浩通、前田 宝秀、小関 正司☆(非常勤講師)、水谷 喜輝☆(非常勤講師)						  		
授業形態	実習	開講時期	1年 前期	時間数	90	区分	必修	分野	花き生産流通	
背景と目的	本科目では、春・夏期の花きの繁殖、栽培管理を行い、鉢物、苗物及び切り花生産におけるそれぞれの基礎技術の習得を目指す。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・花きの繁殖方法を理解する。 ・花きの出荷調整を習得する。 ・花きの栽培管理を習得する。 ・チームワークの重要性を理解する。 									
授業外の学習	本科目で扱う生産物については、授業時間外でも生育状況を観察すること。									
評価方法	取組姿勢(60%)、筆記試験(40%)									
教科書	『園芸「コソ」の科学』(講談社)									
参考書	—									
関連する資格	—									
※☆のある教員は実務経験有り										
授業計画										
実習・演習の進め方	2つのグループに分け、鉢物および切り花の実習をそれぞれ行う。 実習で扱う植物は以下の通りである。 鉢物、苗物:ペゴニア、ニチニチソウ、アゲラタム、トレニア、インパチェンス、ジニア、サルビア、ペチュニア、マリーゴールド、センニチコウ、メランポジウム、ダイアンサス、ポットマムなど 切り花:バラ、キンギョソウ、マトリカリア、アスター、ガーベラ、トルコギキョウ、フランネルフラワーなど									
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員		
1	4	栽培技術①	鉢物:播種① 切り花:トルコギキョウ園場準備					白田・前田		
2	4	栽培技術②	温室遮光カーテンの設置					白田・前田		
3	4	栽培技術③	鉢物:灌水方法解説 切り花:トルコギキョウ 定植					白田・前田		
4	4	栽培技術④	鉢物:ポット上げ① 切り花:マトリカリア等 定植					白田・前田		
5	4	栽培技術⑤	鉢物:苗物の栽培試験 切り花:ガーベラ 葉かき					白田・前田		
6	4	栽培技術⑥	鉢物:ポット上げ② 切り花:バラ 芽整理					白田・前田		
7	4	栽培・出荷調整技術①	鉢物:寄せ植え商品制作 切り花:ガーベラ収穫調整					白田・前田		
8	4	栽培・出荷調整技術②	鉢物:施肥・出荷調整① 切り花:バラ収穫および出荷調整					白田・前田		
9	4	栽培技術⑦	鉢物:植物の仕立て方(ピンチ) 切り花:ソラナム定植					白田・前田		
10	4	栽培技術⑧	鉢物:培養土の化学性調査 切り花:フランネルフラワー鉢替え					白田・前田		
11	4	栽培技術⑨	鉢物:培養土作製 切り花:トルコギキョウ 側枝整理					白田・前田		
12	4	栽培技術⑩	鉢物:シクラメンの鉢替え① 切り花:マトリカリア側枝整理					白田・前田		
13	4	栽培・収穫調整技術③	鉢物:シクラメンの鉢替え② 切り花:マトリカリア収穫調整					白田・前田		
14	4	花き商品開発の展望	商品開発に必要な視点や今後の展望について学ぶ					小関・白田		
15	4	栽培・収穫調整技術④	鉢物:苗物生産における生産コストの計算 切り花:アスター収穫調整					白田・前田		
16	4	ポットマム栽培の実際	ポットマムなど鉢物栽培の現状とさし芽について学ぶ					水谷		
17	4	栽培・収穫調整技術⑤	鉢物:生産物販売データ分析 切り花:トルコギキョウ収穫調整①					白田・前田		
18	4	栽培技術⑪	鉢物:播種② 切り花:ストック播種					白田・前田		
19	4	栽培・収穫調整技術⑥	鉢物:病害虫防除・施肥 切り花:トルコギキョウ収穫調整②					白田・前田		
20	4	栽培技術⑫	鉢物:施肥・出荷調整② 切り花:ストック 定植					白田・前田		
21	4	栽培技術⑬	鉢物:施肥・出荷調整③ 切り花:キク 定植					白田・前田		
22	4	栽培技術⑭	鉢物:シクラメンの管理 切り花:キンギョソウ 定植					白田・前田		
23	2	試験	筆記試験					白田・前田		
特記事項	植物の生育状況等により実習内容を変更する場合がある。 温室内は高温となるため、常に体調管理に気をつけること。また、熱中症対策(水分補給等)に特に留意すること。									
学生へのメッセージ	鉢物及び切り花について、多くの品目を扱うので、それぞれの花きの特徴を覚えましょう。									

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs				
園芸流通概論		○井上 守☆、福永 哲也(非常勤講師)☆					   				
授業形態	講義	開講時期	1年 前期	時間数	30	区分	必修	分野	花き生産流通		
背景と目的	日本の花き生産は1990年をピークに減少の一途をたどっている。花き流通の現場では生産の減少に伴い厳しい経営環境が続き、生き残りを賭けて大胆な変革や抜本的な構造改革を余儀なくされている。本科目では目まぐるしく変化する花き流通の現場を、最新の情報と現物を見ることでより印象強く焼きつけ、今後の花き流通の現場を理解する事を目的とする。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外の花きの消費状況や生産状況を理解する。 ・卸売市場や農協の中間業者の役割と機能を理解する。 ・トレードフェアを視察し、最新の情報や商品に触れて、商品開発のトレンドを知る。 ・花き流通に関する最新の関連法令(植物検疫、種苗法)を理解する。 ・花き物流や園芸資材に関する最新事情(技術、特許)を理解する。 										
授業外の学習	多目的ホールにある業界紙『花卉園芸新聞』、『環境緑化新聞』を定期的に読んでおくこと。										
評価方法	取組姿勢(20%)、筆記試験(80%)										
教科書	『園芸大図鑑』(ブティック社)										
参考書	『物流ビジネス最前線 - ネット通販、宅配便、ラストマイルの攻防-』(光文社新書)										
関連する資格	-										
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員			
1	2	花の消費	国内の花の消費状況					井上			
2	2	国内の花き生産	国内の切花、鉢物、樹木の生産状況					井上			
3	2	植物の表記とその呼称	正式な植物名(学名、種小名、品種名)の表記と一般に使用される植物の呼称についての整理					井上			
4	2	卸売市場や農協の機能と役割	中間業者として卸売市場や農協の歴史と果たしてきた役割とその未来					井上			
5	8	学外視察 豊明花きトレードフェア 見学	<ul style="list-style-type: none"> ・日本最大の花きトレードフェアに参加。全国の優良生産者の商品展示から、流行の最先端の植物やその品質を学習する ・豊明花きの施設を見学 ・福永講師の特別講演「消費動向からみる豊明花きのDX戦略」 					井上 福永			
6	2	海外の花き生産と植物検疫	海外の花き生産と日本に輸出される花きの状況と植物検疫の現状					井上			
7	2	ホームセンター	ホームセンターの概要とビジネスモデル					井上			
8	2	花の小売店等	花の小売店(生花店、園芸店)の現状と小売店以外の花を使う業者について					井上			
9	2	種苗法	種苗法の存在意義と花き生産の方向性					井上			
10	2	花のサブスクの現状	花のサブスクリプション(定額制サービス)の最新情報					井上			
11	2	試験	筆記試験					井上			
12	2	園芸資材の技術革新と特許	様々な園芸資材と切花バケツ、鉢物トレーを紹介し、その特許について解説					井上			
特記事項	豊明花きトレードフェアは新型コロナウイルスの感染状況等により、変更する場合がある。										
学生へのメッセージ	『百聞は一見にしかず』といいますが、私は『百見は一験(体験してみる)、一触(さわってみる)にしかず』と思っています。最新の流通現場を体験して触れてみましょう。										

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
園芸装飾実習Ⅰ		○吉田 久美子☆、佐久間 直敏☆(非常勤講師)、 福井 典子☆(非常勤講師)						   			
授業形態	実習	開講時期	1年	時間数	30	区分	必修	分野	花き装飾		
			前期								
背景と目的		快適な生活空間において植物は必要不可欠となっている。まず植物に触れて育てる技術を習得し、植物を使った装飾をする必要がある。本科目は基本的な植物の育て方と管理方法を学び、多様な植物の装飾方法の基礎技術を習得することを目的とする。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 生活空間での植物の装飾方法および家庭園芸での植物の維持管理方法を理解する。 制作した寄せ植えハンギングバスケットなどを長期メンテナンスすることによって、管理方法を習得する。 園芸装飾実技試験のデモンストレーションを通し、観葉植物を使用した装飾方法を習得する。 春から秋にかけての植物の管理を習得する。 									
授業外の学習		授業で制作したものは、観察・管理すること。									
評価方法		取組姿勢(20%)、提出物(20%)、筆記試験(60%)									
教科書		—									
参考書		—									
関連する資格		2級・3級園芸装飾技能士									
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
実習・演習の進め方		ぎふワールド・ローズガーデンで、園芸装飾の事例調査を行い、寄せ植えやハンギングバスケットなどを制作し学内で管理及びメンテナンスを行います。 また後期の学内ディスプレイ制作に向けて室内園芸装飾制作の事例を検定試験課題から学びます。									
回	時間数	項 目	授業内容						担当教員		
1	4	園芸装飾の事例	園芸装飾の魅力 装飾事例の視察調査(ぎふワールド・ローズガーデン)						吉田		
2	4	家庭園芸基礎① 寄せ植え基礎①	植木鉢の種類とその用途 バルコニープランター・寄せ植え制作						吉田		
3	4	家庭園芸基礎② ハンギングバスケット基礎	肥料と農業について ハンギングバスケットの制作と管理						吉田		
4	4	室内園芸装飾①	観葉植物の組み合わせた装飾の作り方 資材の特徴と扱い方						佐久間		
5	4	室内園芸装飾②	高低差の収め方 室内作業と管理の注意点						佐久間		
6	4	家庭園芸基礎③ 苔玉・ハイドロカルチャー	観葉植物の管理方法 苔玉制作・ハイドロカルチャー制作						吉田		
7	4	寄せ植え基礎②	Plants gathering(プランツ・ギャザリング®)の制作						福井		
8	2	試験・まとめ	筆記試験・制作物の振り返り						吉田		
特記事項		実習にふさわしい服装でハサミを持参してください。									
学生へのメッセージ		生活空間での植物の管理は園芸を学ぶものとして必要です。									

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
フラワーデザイン実習Ⅰ		○林 誠☆、吉田 久美子☆、中西 裕子☆(非常勤講師)									
授業形態	実習	開講時期	1年	時間数	60	区分	必修	分野	花き装飾		
			前期								
背景と目的		「花と緑のある生活」は、人々の心を癒し、時には元気や活力を得ることができる事から、忙しい現代社会において、花き装飾に求められる役割は今後一層大きくなると思われる。フラワーデザインとは植物を素材とする創作活動のすべてを指し、人の手が加わることで、植物の魅力を最大限に引き出しながら用途に合わせた美を表現することである。本科目ではフラワーデザインの基礎技術をアレンジメントや花束を中心に自ら制作することにより身につける事を目的とする。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・フラワーアレンジメントの基本技術を習得する。 ・花束の基本技術を習得する。 ・フラワーデザインについての基本知識を習得する。 									
授業外の学習		実習で学んだ技術を復習しておくこと。									
評価方法		取組姿勢(50%)、筆記試験(10%)、実技(40%)									
教科書		『フラワーデザイナーのための花の教科書』(講談社)									
参考書		『フローリスト』(誠文堂新光社)、『花時間』(株式会社KADOKURA)、『NFDウエディングフラワーコーステキスト』(日本フラワーデザイナー協会)									
関連する資格		2級・3級フラワー装飾技能士									
											※☆のある教員は実務経験有り
授業計画											
実習・演習の進め方		デモンストレーションを参考に作品を制作する。									
回	時間数	項 目	授業内容							担当教員	
1	4	フラワーデザイン概要	フラワーデザインの世界と心得・フリーアレンジ							林	
2	4	アレンジメントの基本①	ラウンド・ホリゾンタル							林	
3	4	アレンジメントの基本②	トライアングュラー・ファン							林	
4	4	アレンジメントの基本③	パーティカル、フラワーアレンジの歴史							林	
5	4	アレンジメントの基本④	面構成と自然感							林	
6	4	ウェディングブーケの基本	ブライデーラウンドブーケ							林	
7	4	コサージュ・ブートニアの基本	ワイヤリングテクニック・ループリボン							吉田	
8	4	プリザーブドフラワーの基本	プリザーブドフラワーの特徴・ローズメリア							中西	
9	4	ドライフラワーの基本	ドライフラワーの特徴・壁掛け							中西	
10	4	押し花の基本	押し花の特徴・額縁							中西	
11	4	花束の基本①	水あげ方法・スパイラルテクニック(一方見と四方見)							林・吉田	
12	4	花束の基本②	ラッピング方法・パラレルテクニック							林	
13	8	生花店見学と花材選び(学外)	テーマに沿った花束・アレンジメント制作							林	
14	4	試験・実技	筆記試験・コサージュ制作							林	
特記事項		実習にふさわしい服装で受講してください。									
学生へのメッセージ		フラワーデザインの基礎技術や知識を学び、植物の魅力を最大限に引き出し、美しく表現できるようになりましょう。									

NO.5

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
3級園芸装飾技能検定対策実習		○林 誠☆、佐久間 貴敏☆(非常勤講師)									
授業形態	実習	開講時期	1年 前期	時間数	30	区分	選択	分野	花き装飾		
背景と目的	園芸装飾技能検定は花や緑の装飾に関わる職業に従事する人として、室内装飾の技術があるかの判断するための国家試験である。 本科目は園芸装飾技能士の取得もしくは、同レベルの技術と知識の習得を目的とする。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 園芸装飾技能検定の合格水準の技術力を習得する。 実技試験内容を繰り返し制作練習することで装飾技術を習得する。 学科試験のための園芸装飾に関する知識を習得する。 										
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> 実技試験の練習は、授業外にも自主的に行うこと。 受講にあたって各自過去問題を予習し、実技課題は復習を行うこと。 										
評価方法	取組姿勢(50%)、実技(50%)										
教科書	—										
参考書	『園芸装飾ハンドブック』(マルモ出版)										
関連する資格	2級・3級園芸装飾技能士										
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
実習・演習の進め方	実技課題を、各自の習得スピードに合わせて、指導を行う。										
回	時間数	項 目	授業内容						担当教員		
1	4	検定試験の概要	検定試験の概要説明と準備						林		
2	4	実技試験対策①	実技課題1の制作の基本						林		
3	4	実技試験対策②	実技課題1の制作の基本の徹底						林		
4	4	実技試験対策③	実技課題2の制作の基本						林		
5	4	実技試験対策④	実技課題2の制作の基本の徹底						林		
6	4	実技試験対策⑤	効率的な実技課題制作						佐久間		
7	4	実技試験対策⑥	制限時間内での実技課題制作						林		
8	2	学科試験対策	過去問題及び解説						林		
特記事項	実習にふさわしい服装で受講してください。 合格するには授業外の練習も必要になります。 2級園芸装飾技能検定の受験希望者も対応します。										
学生へのメッセージ	合格目指して頑張りましょう。										

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
3級フラワー装飾技能検定 対策実習		○安保 有美☆(非常勤講師)、吉田 久美子☆、林 誠 ☆									
授業 形態	実習	開講 時期	1年 前期	時間数	60	区分	選択	分野	花き装飾		
背景と目的		3級フラワー技能検定は花の装飾に関わる職業に従事する人として、最低限の技術があるかの判断するための国家試験である。本科目は3級フラワー装飾技能士の取得もしくは、同レベルの技術と知識の習得を目的とする。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・3級フラワー技能検定の合格水準の技術力を習得する。 ・実技試験内容を繰り返し制作練習することで基礎的な技術を習得する。 ・学科試験のためのフラワーデザインに関する知識を習得する。 									
授業外の学習		実習で学んだ技術を復習し習得すること。学科過去問題を予習しておくこと。									
評価方法		取組姿勢(50%)、実技(50%)									
教科書		『フラワーデザイナーのための花の教科書』(講談社)									
参考書		『フラワー装飾技能検定試験・実例とポイント』(講談社エディトリアル)									
関連する資格		3級フラワー装飾技能士									
											※☆のある教員は実務経験有り
授業計画											
実習・演習の進め方		花束・アレンジメント・ブートニアの3課題を、花材の入荷と各自の習得スピードに合わせて、個別に指導を行う。									
回	時間数	項 目	授業内容						担当教員		
1	4	検定試験の概要	検定試験の概要説明とデモンストレーション						安保・吉田		
2	4	花束課題①	花束の基本						安保		
3	4	花束課題②	花束の基本徹底						安保		
4	4	花束課題③	効率的な花束の制作						安保		
5	4	アレンジメント課題①	アレンジメントの基本						安保		
6	4	アレンジメント課題②	アレンジメントの基本徹底						安保		
7	4	アレンジメント課題③	効率的なアレンジメントの制作						安保		
8	4	ブートニア課題①	ブートニアの基本						安保		
9	4	ブートニア課題②	ブートニアの基本徹底						安保		
10	4	ブートニア課題③	効率的なブートニアの制作						安保		
11	4	3課題①	時間配分を考慮した通し練習①						安保		
12	4	3課題②	時間配分を考慮した通し練習②						安保		
13	4	3課題③	時間配分を考慮した通し練習③						安保		
14	4	3課題④	実技課題最終確認						安保		
15	4	学科試験対策	過去問題・模擬問題						林		

科目		担当教員(○主担当)					主なSDGs		
造園学概論		○相田 明、今西 良共☆					  		
授業形態	講義	開講時期	1年	時間数	30	区分	必修	分野	造園緑化
			前期						
背景と目的		庭園や公園、ガーデニング、都市緑化、ランドスケープといった造園空間に対する関心は高く、特に日本庭園は日本文化の代表として世界的に関心が高まりつつある。本科目では、庭園から公園、国立公園、地球環境まで広く取り扱う造園について知見を深めることを目的とする。							
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・広がりのある造園の定義について理解する。 ・各時代につくられた日本と海外の庭園・造園について理解する。 ・実際に造園空間を見学することにより、造園空間がどのようにつくられているのかが知見を深める。 							
授業外の学習		造園に関する書籍、『ランドスケープデザイン』や『庭』などといった雑誌を積極的に読むこと。							
評価方法		取組姿勢(20%)、提出物(50%)、筆記試験(30%)							
教科書		『造園施工必携』(日本造園組合連合会)							
参考書		『造園学概論』(朝倉書店)							
関連する資格		2級・3級造園技能士、造園施工管理技士							
									※☆のある教員は実務経験有り
授業計画									
回	時間数	項目	授業内容					担当教員	
1	2	造園とは何か	造園の概念、造園の職能					相田	
2	2	日本の造園史①	日本の造園様式の様式と手法:日本庭園の起源～平安時代の庭園					相田	
3	2	日本の造園史②	日本の造園様式の様式と手法:鎌倉・南北朝時代の庭園～江戸時代の庭園					相田	
4	2	日本の造園史③	日本の造園様式の様式と手法:明治時代の造園～戦後から現在までの造園					相田	
5	8	学外視察	虎渓山永保寺、虎渓用水広場、棚田(文化的景観)、商業施設の庭園(銀の森)の見学					相田	
6	2	造園の様式と技法	池泉回遊式庭園、枯山水、縮景、築山庭と平庭、潮入の庭、茶庭(露地)					相田	
7	2	海外の造園史①	海外の造園様式と変遷:紀元前の庭園～イタリアの庭園					相田	
8	2	海外の造園史②	海外の造園様式と変遷:フランスの庭園～イギリスの庭園					相田	
9	2	海外の造園史③	海外の造園様式と変遷:ドイツの庭園～中国の庭園					相田	
10	2	わが国の公園	公園の分類、都市公園、自然公園					今西	
11	2	造園の今日的課題	都市緑化、多様化する造園空間					相田	
12	2	試験	筆記試験					相田	

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs			
花修景実習Ⅰ		○相田 明、天野 麻里絵☆(非常勤講師)								
授業形態	実習	開講時期	1年	時間数	30	区分	必修	分野	造園緑化	
			前期							
背景と目的		花を使った修景(景色を整えること)は、人々の目を引くことから、個人の庭園から都市公園、商業施設までさまざまな場面で活用されている。1年前期・後期、2年前期の1年半にわたり継続する「花と緑の学校」の基礎を学ぶ花修景実習は、学内で栽培した一年草の鉢苗を中心に学内(本館と研修教育棟)の植栽地に夏花壇をつくることにより、その植栽計画・管理の習得を目的とする。								
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・一年草の鉢苗について生育を知る。 ・土壌改良、施肥について理解する。 ・植栽計画、植栽地の管理ができる。 								
授業外の学習		季節ごとに咲く花に関心を持ち、写真を撮るなどして変化を観察すること。								
評価方法		取組姿勢(50%)、提出物(50%)								
教科書		『小さくても素敵な花壇づくり』(講談社)								
参考書		『ガーデン植物大図鑑』(講談社)								
関連する資格		—								
※☆のある教員は実務経験有り										
授業計画										
実習・演習の進め方		主に学内で生産した花苗を使い実習を行う。 学外の視察調査を予定している。								
回	時間数	項 目	授業内容				担当教員			
1	4	花壇の植物とその植栽法、花壇のデザイン、花壇の管理	花壇で使用する植物とその管理方法、花壇のデザインの手法、植栽管理				天野			
2	4	夏花壇の土壌改良	冬花壇の撤去と土づくり				相田			
3	4	夏花壇の植栽	一年草の植栽				天野			
4	4	夏花壇の管理①	6月の植栽管理				天野			
5	4	夏花壇の管理②	7月の植栽管理				相田			
6	4	夏花壇の管理③	9月の植栽管理				天野			
7	4	視察調査	花を使った修景空間の視察調査(豊田ガーデン)				相田			
8	2	夏花壇のまとめ	まとめと花修景実習Ⅱに向けての説明、植栽管理				相田			
特記事項		実習ではハサミ、手袋、帽子、作業しやすい服装が必要。								
学生へのメッセージ		公園の現場では花苗植栽や花がら摘みはボランティアが行うことも多く、我々の仕事は花苗の購入手配や土壌改良、除草といった裏方の地味な仕事となります。しかし、このような仕事があるからこそ、花が美しく保たれることにつながります。花を使った空間づくりができるようになりましょう。								

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs			
造園施工・管理実習Ⅰ		○新井 俊宏☆、池上 東平☆(非常勤講師)、 浅野 洋一☆(非常勤講師)					   			
授業形態	実習	開講時期	1年	時間数	60	区分	必修	分野	造園緑化	
			前期							
背景と目的	施工実習では、自然材料や加工材料を用いた造園施設的制作、管理実習では学内庭園や植物について時期や生育特性に合わせた管理方法などを学ぶとともに、造園的視点・視野をもった観察力の強化を図る。 これにより、潤いとやすらぎのある造園空間を創造するための基礎的な知識、技術、センスを習得する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造園植物(樹木、下草、芝生など)の生育特性を踏まえた管理方法を習得する。 ・造園施設(竹垣、敷石、レンガ舗装など)の施工方法を習得する。 ・造園空間の特性を理解する。 									
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学内造園空間のエリア管理を必要に応じ行うこと。 ・「Landscape Design」、「庭」、環境緑化新聞等を読むこと。 									
評価方法	取組姿勢(70%)、提出物(30%)									
教科書	『造園施工必修』(日本造園組合連合会)									
参考書	『造園技術ハンドブック』(誠文堂新光社)									
関連する資格	2級・3級造園技能士、2級造園施工管理技士									
									※☆のある教員は実務経験有り	
授業計画										
実習・演習の進め方	学内の庭園や植栽地をフィールドとして、造園施工作業及び造園管理作業の実習を行う。 毎回、実習の内容を野帳に記して翌日提出すること。									
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員		
1	4	造園管理①	造園空間の観察と道具の取扱い					新井		
2	4	造園管理②	灌木の刈り込み					新井		
3	4	造園管理③	芝生の管理					新井		
4	4	造園管理④	常緑樹の春の管理(クロマツのミドリ摘み)					池上		
5	4	造園施工①	土の造形物の制作					新井		
6	4	造園管理⑤	本館アプローチ花壇の植栽計画					新井		
7	4	造園管理⑥	本館アプローチ花壇の植栽					新井		
8	4	造園施工②	四ツ目垣の制作					新井		
9	4	造園施工③	緑石、敷石の据付					新井		
10	4	造園管理⑦	初夏の花木剪定					新井		
11	4	造園施工④	レンガ舗装の施工(土工、路盤工)					新井		
12	4	造園施工⑤	レンガ舗装の施工(レンガ敷設)					新井		
13	4	造園管理⑦	バラの特性と夏季剪定					浅野		
14	4	造園管理⑧	常緑樹の剪定					池上		
15	4	造園管理⑧	本館前庭園の管理					新井		
特記事項	実習時は作業着、グローブ、保護帽などを着用すること。天候などの理由により実習内容を変更する場合があります。 夏期の高温時の実習では、熱中症防止のため帽子を着用し水分補給をすること。									
学生へのメッセージ	造園の基本的な知識や技術、センスをこの授業でしっかり身につけてください。									

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs				
3級造園技能検定対策実習		○新井 俊宏☆					   				
授業形態	実習	開講時期	1年 前期	時間数	45	区分	選択	分野	造園緑化		
背景と目的	造園技能士は造園に関する知識と技能の試験を行い、その合格者に与えられる国家資格である。造園技能士は、一般の家庭の庭づくりや維持管理ばかりでなく、大規模な公共工事の現場で従事することが義務づけられるなど、社会的な必要性が高まっている。本科目は3級造園技能検定の合格を目指すものである。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学科試験の合格水準に達する知識を習得する。 ・実技試験の課題制作が、規定時間内に規定の寸法どおりに完成することができる。 ・実技試験の判断等試験に出題される樹木を判別することができる。 										
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験の自主練習 ・学科試験、判断等試験の自主学習 										
評価方法	取組姿勢(80%)、実技(20%)										
教科書	『3級造園技能検定受験の手引き(学科・実技編)』(日本造園組合連合会)										
参考書	『葉っぱでわかる造園樹木図鑑』(講談社)										
関連する資格	3級造園技能士										
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
実習・演習の進め方	<p>学科試験対策は、受験の手引きに掲載されている過去問題を解きながら解説を行う。</p> <p>実技試験対策は、練習場において、繰り返し課題を制作して練習する。</p> <p>判断等試験対策は、学内の樹木枝を標本木として枝、葉、芽などの特徴を覚える。</p>										
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員			
1	2	試験概要	学科・実技試験の概要説明					新井			
2	4	判断等試験対策①	樹木枝の収集、樹木の特徴解説					新井			
3	4	学科試験対策①	過去問題(R3年度)による学科試験の出題傾向と対策					新井			
4	4	実技試験対策①	実技試験課題の練習(竹垣)①					新井			
5	4	実技試験対策②	実技試験課題の練習(竹垣)②					新井			
6	4	実技試験対策③	実技試験課題の練習(緑石、敷石)					新井			
7	4	学科試験対策②	過去問題(R2年度)による学科試験の対策					新井			
8	4	実技試験対策④	実技試験課題の練習(制限時間内での練習)①					新井			
9	4	学科試験対策③	過去問題(R1年度)による学科試験の対策					新井			
10	4	実技試験対策⑤	実技試験課題の練習(制限時間内での練習)②					新井			
11	4	実技試験対策⑥	実技試験課題の練習(制限時間内での練習)③					新井			
12	3	判断等試験対策②	判断等試験対策					新井			
特記事項	担当教員と事前に相談の上、「相互科目履修申請書」を提出し、許可を受けた2年生も履修することができる。天候などの理由により実習日程を変更する場合がある。										
学生へのメッセージ	1級造園技能士の資格を持つ教員が試験合格に向けての知識・技能を指導します。合格を目指しましょう。										


科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs			
商品動向リサーチ I		○井上 守☆								
授業形態	実習	開講時期	1年 前期	時間数	15	区分	必修	分野	マーケティング	
背景と目的	日本で流通する園芸植物は属名ベースで1600属以上といわれている。本科目では、鉢物の取引量で全国1位を誇る愛知豊明花き卸売市場が2020年に取り扱った約1600品目のうち、春・夏期の取扱金額上位の150品目の植物について、学名や原産地や特徴や管理方法について独自の手書きのデータベースを作成する。取り扱い上位の植物から学習することで現場流通している植物の基本的性質を効率的に学習することを目的とする。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図鑑やインターネットを利用した植物の調べ方を知る。 ・植物の写真の撮り方の基礎を知る。 ・植物図鑑アプリを使用できる ・春・夏期、上位150品目について、学名や原産地や特徴や管理方法などを知る。 									
授業外の学習	小売店、ガーデンセンター、公園の花壇において花の名前を意識して見ておくこと。									
評価方法	データベースの作成成果(20%)、試験(80%)									
教科書	『園芸大図鑑』(ブティック社)									
参考書	-									
関連する資格	-									
※☆のある教員は実務経験有り										
授業計画										
実習・演習の進め方	最初に150品目のリストを配布し、近隣のガーデンセンター(日本ライン花木センター)でリストに該当する植物を探し、写真撮影する。撮影した植物は、園芸大図鑑、学校の図書館やインターネットを利用して、手書きの植物のデータベースを完成させる。最後に150品目について、写真から植物名を同定する確認試験を行う。									
回	時間数	項 目	授業内容				担当教員			
1	1	植物の調べ方	植物の調べ方、図鑑の見方				井上			
2	2	植物の撮影方法	植物撮影の基礎				井上			
3	4	花木センターでの写真撮影(5月:春の植物)	キク科、キンポウゲ科などの代表的な春の植物の調査、撮影(目標100品目)				井上			
4	2	データベース作成、植物調べ①	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ				井上			
5	4	花木センターでの写真撮影(7月:初夏の植物)	観葉植物など中心に代表的な夏の植物の調査、撮影(目標50品目)				井上			
6	1	データベース作成、植物調べ②	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ				井上			
7	1	試験	筆記試験				井上			
特記事項	デジカメ(スマートフォン可)、USBメモリ等が必要									
学生へのメッセージ	データベース作成はボリュームがありますが、データベースが完成した時は達成感があります。									

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
植物管理基礎実習Ⅰ		○前田 宝秀、白田 浩通、吉田 久美子☆、林 誠☆、相田 明、新井 俊宏☆、井上 守☆、佐藤 智茂☆									
授業形態	実習	開講時期	1年 前期	時間数	60	区分	必修	分野	植物管理		
背景と目的	花き生産・花き装飾・造園緑化の各分野において、四季を通じて植物を管理するための知識および技術は必ず習得すべきものである。 本科目では、春・夏期における生産温室、学内花壇、庭園、その他各種花飾り等の日常管理を行うことで、園芸植物管理に不可欠な基礎的技術と知識を習得する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・春・夏期における植物の種類による管理方法の違いを理解する。 ・春・夏期における灌水技術を習得する。 ・春・夏期における温室の管理技術を習得する。 										
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に、当日および翌日の天気予報を必ず確認すること。 ・実習後に週間レポート用紙に当日の気温、天気、実習内容、疑問に思ったこと等を記入すること。 										
評価方法	取組姿勢(80%)、レポート(20%)										
教科書	—										
参考書	—										
関連する資格	—										
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
実習・演習の進め方	原則1週間(水曜日～翌週火曜日)を単位として管理実習を行う。学生の班編成を行い、年間計画を作成して実習を行う。学生の班編制は、季節の実習内容や管理するエリア等を考慮して人数を決める。原則として1年生1名に対して2年生1名が組み、担当教員が植物管理について指導を行う。										
回	時間数	項 目	授業内容						担当教員		
1	8	植物の種類と管理	植物の種類に応じた管理方法						週担当教員		
2	8	土壌と灌水①	土壌の性質と水管理						週担当教員		
3	8	土壌と灌水②	自動灌水と手灌水による管理技術						週担当教員		
4	8	植物の生長・開花①	環境(温度・光・水・風)の変化による植物の生長の違い						週担当教員		
5	8	植物の生長・開花②	植物の特性に応じた環境調節(遮光、保温、暖房等)技術						週担当教員		
6	8	植物の総合管理	花殻摘み・除草などの植物維持管理技術						週担当教員		
7	8	病害虫	病害虫の種類と生態						週担当教員		
8	2	春・夏期の植物管理方法	春・夏期の各エリアの植物管理方法(講義)						週担当教員		
9	2	エリア整備	各エリアの整備を通じた、環境美化意識の向上						週担当教員		
特記事項	年間計画に基づき、おおむね1週間の実習を複数回行う。 祝日及び長期休暇期間中も行う。 実習時間は平日は朝8時から8時45分、夕方16時35分から17時05分まで、祝日及び長期休暇期間中は朝8時30分から9時30分、夕方16時から17時までとする。										
学生へのメッセージ	まずは植物を「枯らさない」ことに始まり、「美しい状態を維持管理する」技術の習得を目指します。灌水の技術だけでも3年かかってやっと習得できるという意味で、「水やり三年」という言葉があります。植物の日常的な管理は日々の経験の積み重ねが大切ですので、コツコツと頑張りましょう。										

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs				
イベント販売実習		○井上 守☆、白田 浩通、前田 宝秀、 吉田 久美子☆、林 誠☆									
授業形態	実習	開講時期	1年 後期	時間数	15	区分	必修	分野	花き生産流通		
背景と目的		本校では、授業で作った鉢物や切花、フラワーアレンジなどを直接販売して、消費者から直に感想や意見を聞く機会を設けてきた。本科目では、学生が制作(生産)した商品を、ぎふワールド・ローズガーデン(岐阜県可児市)にて、野外販売をおこなう事で商品企画、制作、販売、会計、分析など、ビジネス活動における一連の流れを体験する。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 商品企画、商品開発、販売、分析の一連の活動を理解する。 商品ディスプレイ、POP作成など、イベント販売における店舗デザインを学ぶ。 接客時における接遇やマナーを実践的に習得する。 イベントにむけて共働する事によるリーダーシップ、フォローシップを学ぶ。 									
授業外の学習		POP制作に役立てるため、園芸関係以外の店舗のPOPも日頃から関心をもっておくこと。									
評価方法		レポート(20%)、取組姿勢(80%)									
教科書		-									
参考書		『あっ、買っちゃった。:一瞬でお客に反応させる快感マーケティング』(フォレスト社)									
関連する資格		販売士									
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
実習・演習の進め方		販売実習においては受講者をA班、B班に分けて、A班が10月22日(土)、B班が10月23日(日)を担当									
回	時間数	項 目	授業内容						担当教員		
1	2	イベントの概要と販売方針	<ul style="list-style-type: none"> イベントの概要説明 リーダーシップ、フォローシップとは 販売方針決定 ロードマップ作成、役割分担 						井上、白田、前田		
2	2	VMD(ビジュアル・マーチャンダイジング)	<ul style="list-style-type: none"> ゴールデンゾーン、アイキャッチ キャッチコピー、看板の効用 客の心をつかむPOPとは? 						吉田、林		
3	2	POSシステム	販売アプリを活用した会計システムの活用						井上		
4	8	販売実習	ぎふワールド・ローズガーデンでの販売 10月22日(土) A班 10月23日(日) B班						井上、白田、前田、吉田、林		
5	1	売上データ分析、総括	売上分析、総合評価、レポート提出						井上、白田、前田		
特記事項		販売場所は変更になる場合がある。									
学生へのメッセージ		イベントに向けて、短期集中で全員で協力する授業です。学生時代の思い出にしてください。									

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs		
生産マネジメント実習Ⅰ		○白田 浩通、井上 守☆、前田 宝秀、嶋津 光鑑(非常勤講師)、落合 正樹(非常勤講師)、水谷喜輝(非常勤講師)					  		
授業形態	実習	開講時期	1年 後期	時間数	60	区分	選択	分野	花き生産流通
背景と目的	花き産業の現場では、即戦力として計画的に温室管理ができる人材が求められている。本科目では花き栽培温室の管理や、ゼミ会議を通じて、生産現場におけるマネジメント能力の向上を図る。								
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・温室の栽培計画が立てられる。 ・施肥設計や品目、品種設定ができる。 ・チームワークの重要性を理解する。 ・マネジメント能力を身につける。 ・業界の動向を知る。 								
授業外の学習	授業時間外でも、担当温室の生育状況の確認し、適切な管理を行うこと。								
評価方法	取組姿勢(70%)、活動報告書(30%)								
教科書	-								
参考書	-								
関連する資格	-								
※☆のある教員は実務経験有り									
授業計画									
実習・演習の進め方	温室の担当者を決め、年間利用計画の作成から栽培管理の実践に取り組み、毎回活動報告書を提出し、業務記録記帳のトレーニングを行います。また、ゼミ会議を開催し、温室の状況や必要な作業について確認を行います。								
回	時間数	項 目	授業内容				担当教員		
1	4	担当温室利用計画の作成	担当温室の年間利用計画の作成				白田・前田		
2	4	ポットマムの生育評価	各自が育てたポットマムの管理状況を確認評価				水谷・白田		
3	4	担当温室の管理①	ゼミ会議及び栽培品目の管理実践				白田・前田		
4	4	花き生産流通現場の調査	生産流通現場を視察し、花き生産流通の現状と課題を理解する				白田・井上・前田		
5	4	担当温室の管理② 業界紙の輪読①	ゼミ会議及び栽培品目の管理実践、業界紙の輪読				白田・井上・前田		
6	4	担当温室の管理③	ゼミ会議及び栽培品目の管理実践、				白田・前田		
7	4	担当温室の管理④ 業界紙の輪読②	ゼミ会議及び栽培品目の管理実践、業界紙の輪読				白田・井上・前田		
8	4	担当温室の管理⑤	ゼミ会議及び栽培品目の管理実践、				白田・前田		
9	4	担当温室の管理⑥ 業界紙の輪読③	ゼミ会議及び栽培品目の管理実践、業界紙の輪読				白田・井上・前田		
10	4	担当温室の管理⑦	ゼミ会議及び栽培品目の管理実践、				白田・前田		
11	4	担当温室の管理⑧ 業界紙の輪読④	ゼミ会議及び栽培品目の管理実践、業界紙の輪読				白田・井上・前田		
12	4	温室の環境制御を学ぶ	温室管理における環境制御技術				嶋津・落合		
13	4	担当温室の管理⑨ 業界紙の輪読⑤	ゼミ会議及び栽培品目の管理実践、業界紙の輪読				白田・井上・前田		
14	4	担当温室の管理⑩	ゼミ会議及び栽培品目の管理実践、				白田・前田		
15	4	担当温室管理のふり返り	担当温室の管理の改善点等の検討				白田・井上・前田		
特記事項	授業内容は、各担当温室の状況などにより変更する場合がある。花き生産コース専攻生には強く推奨する。								
学生へのメッセージ	自ら温室の管理を行うことやゼミ会議での意識統一などを通じて、マネジメント能力の向上に努めましょう。								

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs		
生産課題解決演習Ⅰ		○白田 浩通・井上 守☆・前田 宝秀								
授業形態	演習	開講時期	1年 後期	時間数	45	区分	選択	分野	花き生産流通	
背景と目的	花き生産の現場では、自ら課題を発見し、解決に導く能力が求められる。そこで、花き生産現場等から掘り起こした課題を設定し、調査研究に取り組むことで課題解決能力を習得する。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決力を身につける。 ・PDCAサイクルの考え方が身につく。 									
授業外の学習	授業時間外でも、課題に取り上げた植物について常に観察を行うこと。									
評価方法	取組姿勢(70%)、活動実績書(30%)									
教科書	-									
参考書	-									
関連する資格	-									
※☆のある教員は実務経験有り										
授業計画										
実習・演習の進め方	学生それぞれが、課題研究テーマを設定して調査・研究を行い、活動実績書としてまとめる。									
回	時間数	項 目	授業内容						担当教員	
1	4	個別課題研究テーマの検討①	個別課題研究テーマの設定に向けた情報収集						白田・井上・前田	
2	8	個別課題研究テーマの検討②	花き生産者調査による個別課題研究テーマの検討						白田・井上・前田	
3	4	調査計画書の作成	個別課題研究テーマに基づいた調査等計画書の作成						白田・井上・前田	
4	2	個別課題研究の実施①	個別課題の調査及びデータ整理						白田・井上・前田	
5	2	個別課題研究の実施②	個別課題の調査及びデータ整理						白田・井上・前田	
6	2	個別課題研究の実施③	個別課題の調査及びデータ整理						白田・井上・前田	
7	2	個別課題研究の実施④	個別課題の調査及びデータ整理						白田・井上・前田	
8	2	個別課題研究の中間検討	個別課題の進捗状況の中間検討と見直し						白田・井上・前田	
9	2	個別課題研究の実施⑤	個別課題の調査及びデータ整理						白田・井上・前田	
10	2	個別課題研究の実施⑥	個別課題の調査及びデータ整理						白田・井上・前田	
11	2	個別課題研究の実施⑦	個別課題の調査及びデータ整理						白田・井上・前田	
12	2	個別課題研究の実施⑧	個別課題の調査及びデータ整理						白田・井上・前田	
13	4	活動実績書作成	個別課題の活動実績書の作成						白田・井上・前田	
14	5	個別課題の進捗発表	個別課題の調査取組結果の発表と検討						白田・井上・前田	
15	2	個別課題の見直し	個別課題の見直し						白田・井上・前田	
特記事項	個別課題に取り組むため、進捗状況により授業内容は変更する場合がある。 鉢物、苗物及び切り花などの栽培技術、商品開発、流通技術等に関する課題テーマとする。									
学生へのメッセージ	課題の発見、課題解決に向けた試験計画の作成・実行・評価を通じて社会人として必要な課題解決能力を身に付けましょう。									

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs			
園芸装飾実習Ⅱ		○吉田 久美子☆								
授業形態	実習	開講時期	1年	時間数	30	区分	選択	分野	花き装飾	
			後期							
背景と目的		<p>植物は、人々に快適な空間をつくり、美しい街づくりには欠かせない存在となっている。 本科目では学外事例を視察し、学内にテーマに合った小ガーデンをグループでコミュニケーションを取りながらデザイン、資材調達、施工、管理、撤去の一連の作業を行い実践的な技術を習得する。</p>								
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・秋から春にかけての植物の管理方法を理解する。 ・バルコニープランター・ハンギングバスケットの開花調整、メンテナンス方法を習得する。 ・室内園芸装飾作品における基本的テクニックの習得をする。 ・デザイン、資材調達、施工、管理、撤去を、グループで行う事でコミュニケーション力と協調性を習得する。 								
授業外の学習		<ul style="list-style-type: none"> ・学外視察前に、デンパークの概要を図書室の『安城産業文化公園デンパーク花とみどりの20年』に目を通すこと。 ・授業で制作したバルコニープランター・ハンギングバスケットは、常時観察・管理すること。 ・グループごとにデザインなどの打ち合わせをすること。 								
評価方法		取組姿勢(50%)、提出物(20%)、制作作品(30%)								
教科書		—								
参考書		『安城産業文化公園デンパーク花とみどりの20年』(公益財団法人安城都市農業振興協会)								
関連する資格		2級・3級園芸装飾技能士								
※☆のある教員は実務経験有り										
授業計画										
実習・演習の進め方		学外調査にて園芸装飾事例の計画方法や手法の調査を行い、グループに分かれ制作した装飾を学内に約3週間展示し、管理を行う。								
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員		
1	8	装飾事例調査(学外)	装飾事例の視察調査(安城産業文化公園デンパーク)					吉田		
2	4	家庭園芸基礎 寄せ植え応用	球根の種類と分類と植栽方法 バルコニープランターとハンギングバスケットの制作と管理方法					吉田		
3	2	室内園芸装飾①	室内園芸装飾における植物の管理方法 テーマとコンセプト					吉田		
4	4	室内園芸装飾②	計画・イメージ図からのプレゼンテーション・資材調達					吉田		
5	4	室内園芸装飾③	準備・鉢物調達					吉田		
6	8	室内園芸装飾④	制作・作品講評					吉田		
特記事項		授業時間外においても制作物の管理及びメンテナンスを行います。 実習にふさわしい服装でハサミを持参してください。								
学生へのメッセージ		『園芸装飾実習Ⅰ』で学んだ技術を基本に本科目では実践的なテクニックを身につけましょう。								

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs			
フラワーデザイン実習Ⅱ		○林 誠☆、吉田 久美子☆、中西 裕子☆(非常勤講師)、國井 理佐☆(非常勤講師)					   			
授業形態	実習	開講時期	1年	時間数	60	区分	選択	分野	花き装飾	
			後期							
背景と目的	フーリストの仕事の中で、季節や行事、イベントに関連する仕事の割合は年々増加している。本科目では、様々な季節や行事、イベントに特化した作品(商品)づくりに取り組むことにより、フーリストとして、クライアントの要望に応えられる知識や技術の引き出しを増やす事を目的とする。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の商品が制作できる。 ・花に関わる季節行事を知る。 ・自ら花材を選びイメージを形にできる。 									
授業外の学習	実習で学んだ技術を復習しておくこと。									
評価方法	取組姿勢(50%)、実技(50%)									
教科書	『フラワーデザイナーのための花の教科書』(講談社)									
参考書	『フーリスト』(誠文堂新光社)、『花時間』(株式会社KADOKURA)、『NFDウェディングフラワーコーステキスト』(日本フラワーデザイナー協会)									
関連する資格	2級・3級フラワー装飾技能士									
※☆のある教員は実務経験有り										
授業計画										
実習・演習の進め方	デモンストレーションを参考に作品を制作する。 デザイン・コンセプトを自ら考え作品を制作する。									
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員		
1	4	ウェディング装花①	ヘアオーナメント					國井		
2	4	季節の商品ハロウィン	グルーピングテクニック・ハロウィンアレンジメント					林		
3	4	鉢のラッピングと寄せ鉢	ポット鉢の組み合わせ・ラッピング					吉田		
4	4	プリザーブドフラワー・ドライフラワーの応用	パウダーフォーム・ハーバリウム					中西		
5	4	季節の商品・クリスマス①	テーブルコーディネート・クリスマスのアレンジメント					中西		
6	4	季節の商品・クリスマス②	花に関わる季節行事・スワッグ					林		
7	4	季節の商品・クリスマス③	クリスマスリース					林		
8	4	季節の商品・正月	しめ縄・正月のアレンジメント(グロースオブハビット)					吉田・林		
9	4	アレンジメントの応用①	異なる素材の組み合わせ・BOXアレンジメント					林		
10	4	アレンジメントの応用②	クレセント・ホガース					林		
11	4	花束の応用	スパイラルテクニック(一方見・四方見)					林		
12	4	ウェディング装花②	キャスケードブーケ					林		
13	4	ウェディング装花③	クレセントブーケ					國井		
14	4	プリザーブドコサージュ	卒業式に向けたプリザーブドコサージュ制作					林・吉田		
15	4	試験・実技	花束・アレンジメント制作(テーマに基づき各自花材調達)					林		
特記事項	実習にふさわしい服装で受講してください。 花き装飾コース専攻生には強く推奨する。									
学生へのメッセージ	商品制作を通してフラワーデザインのテクニックや知識を習得し作品の幅を広げましょう。									

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
花修景実習Ⅱ		○相田 明、上野 恵☆(非常勤講師)						   			
授業形態	実習	開講時期	1年 後期	時間数	30	区分	必修	分野	造園緑化		
背景と目的	「花修景実習Ⅰ」に続き、本館と研修教育棟に加え、学内のボーダーガーデン、学外のぎふワールド・ローズガーデンを実習地とするこの実習は、一・二年草や球根、宿根草の植栽計画・管理の習得を目的とする。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 一・二年草や球根、宿根草の生育を知る。 都市公園における花修景について理解する。 ボーダーガーデンにおける宿根草の株分け、掘り上げができる。 二年草や球根、宿根草を使った植栽計画を立てることができる。 										
授業外の学習	季節ごとに咲く花に関心を持ち、写真を撮るなどして変化を観察すること。										
評価方法	取組姿勢(50%)、提出物(50%)										
教科書	『小さくても素敵な花壇づくり』(講談社)										
参考書	『ガーデン植物大図鑑』(講談社)										
関連する資格	—										
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
実習・演習の進め方	学内の実習では講義や実習内容の説明をした後(1時間程度)、実習を行う。ぎふワールド・ローズガーデンの実習ではバスを利用し移動する。										
回	時間数	項 目	授業内容						担当教員		
1	4	秋花壇の管理・補植	秋花壇の管理・補植、冬花壇のデザイン(ぎふワールド・ローズガーデン) ぎふワールド・ローズガーデンの視察(実習フィールド、茶室など)						上野		
2	4	冬花壇の土壌改良	夏花壇の撤去と土づくり(学内)						相田		
3	4	冬花壇の植栽①	一年草などの植栽(学内)						相田		
4	8	冬花壇の植栽②	一年草、球根などの植栽(ぎふワールド・ローズガーデン)						上野		
5	4	ボーダーガーデンの管理①	宿根草などの管理(学内)						相田		
6	4	冬花壇の管理	植栽管理(学内)						相田		
7	2	ボーダーガーデンの管理②	宿根草などの管理、株分け・鉢上げ(学内)						相田		
特記事項	実習ではハサミ、手袋、帽子、作業しやすい服装が必要。										
学生へのメッセージ	学内の植栽と違い、ぎふワールド・ローズガーデンの植栽は来園者に見ていただく喜びがあると思います。										

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
造園施工・管理実習Ⅱ		○新井 俊宏☆、池上 東平☆(非常勤講師)、 浅野 洋一☆(非常勤講師)									
授業形態	実習	開講時期	1年 後期	時間数	60	区分	選択	分野	造園緑化		
背景と目的	『造園施工・管理実習Ⅰ』に引き続き、潤いとやすらぎのある造園空間を創造するための基礎的な知識、技術、センスの習得を目指す。 施工実習および管理実習ともに『造園施工・管理実習Ⅰ』同様、自然材料や加工材料を用いた造園施設の制作、学内庭園や植物について時期や生育特性に合わせた管理方法、樹木病害虫の防除方法などについて学ぶ。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造園植物(樹木、下草、芝生など)の生育特性を踏まえた管理方法を習得する。 ・造園施設(景石、延べ段など)の施工方法を習得する。 ・造園空間の様式や構成を理解する。 										
授業外の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・学内造園空間のエリア管理を必要に応じ行うこと。 ・「Landscape Design」、「庭」、環境緑化新聞等を読むこと。 										
評価方法	取組姿勢(70%)、提出物(30%)										
教科書	『造園施工必携』(日本造園組合連合会)										
参考書	『造園技術ハンドブック』(誠文堂新光社)										
関連する資格	2級・3級造園技能士、2級造園施工管理技士										
										※☆のある教員は実務経験有り	
授業計画											
実習・演習の進め方	学内の庭園や植栽地及び学外(ぎふワールド・ローズガーデン)の実習フィールドにおいて、造園施工作業及び造園管理作業の実習を行う。毎回、実習の内容を野帳に記して翌日提出すること。										
回	時間数	項 目	授業内容						担当教員		
1	4	造園管理①	実習フィールド造園エリアの管理(学外)						新井		
2	4	造園管理②	本館アプローチ花壇の植栽						新井		
3	4	造園管理③	芝生の刈り込み、サッチ取り、目土						新井		
4	4	造園施工①	ロックガーデンの施工						新井		
5	4	造園施工②	ロックガーデンの植栽						新井		
6	4	造園管理④	常緑樹、落葉樹の剪定						池上		
7	4	造園管理⑤	本館前庭園の管理						新井		
8	4	造園管理⑥	常緑樹(マツ)の管理						池上		
9	4	造園管理⑦	世界のバラ園前、花トピア前小庭園の管理(学外)						新井		
10	4	造園管理⑧	落葉樹の剪定						新井		
11	4	造園管理⑨	バラの冬季剪定						浅野		
12	4	造園施工③	樹木の移植(高木)、植栽基盤の土壌改良①						新井		
13	4	造園施工④	樹木の移植(高木)、植栽基盤の土壌改良②						新井		
14	4	造園施工⑤	チェーンブロックによる景石の据え付け						池上		
15	4	造園施工⑥	延段の施工						池上		
特記事項	実習時作業着、グローブ、保護帽などを着用すること。天候などの理由により実習内容を変更する場合がある。夏期の高温時の実習では、熱中症防止のため帽子を着用し水分補給をすること。										
学生へのメッセージ	造園の基本的な知識や技術、センスをこの授業でしっかり身につけてください。										

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
測量実習		○新井 俊宏☆									
授業形態	実習	開講時期	1年 後期	時間数	30	区分	選択	分野	造園緑化		
背景と目的	測量は造園のみならず社会インフラ整備には欠かせない技術である。その中で、造園施工で必要となる平板測量、水準測量など最低限の知識を身につけることを目的とする。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・測量機器の操作方法、測量データの整理方法を習得する。 ・平板測量、水準測量、地形測量の技術を習得する。 ・設計図から現場に位置出しができ、丁張を設置することができる。 										
授業外の学習	造園空間のスケール感を身につけること。										
評価方法	取組姿勢(50%)、提出物(50%)										
教科書	『造園施工必携』(日本造園組合連合会)										
参考書	-										
関連する資格	2級造園施工管理技士										
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
実習・演習の進め方		教科書や配布資料に沿って実習の説明を行った後、グループに分かれて測量を行う。									
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員			
1	4	測量の基礎知識	測量の基礎、学内の距離測量					新井			
2	4	平板測量	平板測量の理論、学内の平板測量					新井			
3	4	水準測量	水準測量の理論、学内の水準測量、成果簿の作成					新井			
4	4	地形測量①	平板測量と水準測量による地形測量					新井			
5	4	地形測量②	実測平面図、断面図の作成					新井			
6	4	トータルステーション操作	トータルステーションの据え付け、観測方法					新井			
7	2	起工測量、丁張設置①	起工測量と丁張の設置方法					新井			
8	4	起工測量、丁張設置②	学内での起工測量、丁張設置					新井			
特記事項	造園緑化コース専攻生に強く推奨する。 『製図実習』と『造園施工・管理実習Ⅱ』と同時に履修することを強く推奨する。										
学生へのメッセージ	測量は土木、建築においても重要な技術であり、造園のみならず建設に関する仕事には欠かせないものであり、現場実務経験を持つ教員が実際の現場で役に立つ知識、技術を講義、実習指導します。基本的な測量技術を身につけましょう。										

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs			
製図実習		○新井 俊宏☆								
授業形態	実習	開講時期	1年 後期	時間数	30	区分	選択	分野	造園緑化	
背景と目的	造園空間を施工する上で必要となる各種図面は、デザイナーの意図を明確に伝える役割を持ち、コミュニケーションを図るためのものである。そのために必要な設計作図技術の基本を学ぶ。									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・造園に関わる基本的な設計・図面に関する事柄を理解できる。 ・平面図や立面図など造園に関わる図面を描ける。 ・スケール感を身につける。 									
授業外の学習	普段から風景をスケッチしたり線を引く練習を行い、描画力の向上に努める。									
評価方法	取組姿勢(50%) 提出物(50%)									
教科書	『造園施工必携』(日本造園組合連合会)									
参考書	『造園図面の表現と描法1・2』(誠文堂新光社)									
関連する資格	2級造園施工管理技士									
									※☆のある教員は実務経験有り	
授業計画										
実習・演習の進め方	教科書や配布資料に沿って実習の説明を行った後、各自製図を行う。									
回	時間数	項 目	授業内容						担当教員	
1	4	製図実習①	製図用具の種類と取り扱い、図面の種類と描き方						新井	
2	4	製図実習②	図面と縮尺、文字・数字の書き方						新井	
3	4	製図実習③	造園樹木の平面図、立面図の表現方法						新井	
4	4	製図実習④	造園計画平面図(住宅庭園)の表現方法、着彩①						新井	
5	4	製図実習⑤	各種構造図の製図						新井	
6	4	製図実習⑥	アクソメ図、パース図の作成						新井	
7	2	製図実習⑦	造園計画平面図(街区公園レベル)の表現方法、着彩②						新井	
8	4	製図実習⑧	造園計画平面図(総合公園レベル)の表現方法、着彩③						新井	
特記事項	造園緑化コース専攻生に強く推奨する。『測量実習』と『造園施工・管理実習Ⅱ』と同時に履修することを強く推奨する。									
学生へのメッセージ	現場実務経験を持つ教員が実際の現場で役に立つ知識、技術を講義、実習指導します。									

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs		
CAD製図実習		○相田 明、堀部 裕美子☆(非常勤講師)							
授業形態	実習	開講時期	1年後期	時間数	30	区分	選択	分野	造園緑化
背景と目的	文章を手書きではなくパソコンを用いて書くように、造園の設計図もパソコンを利用する時代となっている。設計図を描くソフトウェアであるCADによる作図の基礎を学び、今後の造園設計に役立てることを目的とする。								
到達目標	・CADによる基本的な作図ができる。								
授業外の学習	造園空間がどのような寸法で出来ているか普段から観察すること。								
評価方法	取組姿勢(50%)、提出物(50%)								
教科書	『はじめてのVectorworks』、『Vectorworks3Dのスタート』(A&A)								
参考書	—								
関連する資格	Vectorworks操作技能認定試験								
									※☆のある教員は実務経験有り
授業計画									
実習・演習の進め方		PCを使用して、実際にCADソフトを操作しながら実施する。							
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員	
1	4	CADとは	手書きによる製図とCAD・エクステリア用CAD					相田	
2	4	VectorWorksの基礎	起動から新規作成・保存、レイヤとクラス					相田	
3	4	作図の基本	トレーニング 直線・ダブルライン、四角形・斜め四角の描画、多角形、正四角形、曲線・フリーハンド図形の描画					相田	
4	4	2D図形の編集	多角形の編集・消しゴムツール、フィレット・面取り・オフセット、回転ツール・ミラー反転ツール・パス複製ツール					相田	
5	4	平面図の実践トレーニング①	図面の制作(3級造園技能士施工図)					相田	
6	2	平面図の実践トレーニング②	図面の制作(2級造園技能士施工図)					相田	
7	8	3D図形の編集	柱状体・錐状体・多段柱状体を使って描画、3D図面の制作					堀部・相田	
特記事項		「測量実習」「製図実習」の履修者、もしくは製図の基礎を理解している学生を対象とする。岐阜県農大の校舎情報処理室で実施する。							
学生へのメッセージ		CADのソフトウェアは操作が複雑で難しいと感じるかもしれませんが、一度覚えると卒業制作などの図面を修正するとき便利なことが実感できると思います。							

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
商品動向リサーチⅡ		○井上 守☆						4	8	9	12
授業形態	実習	開講時期	1年 後期	時間数	15	区分	必修	分野	マーケティング		
背景と目的	『商品動向リサーチⅠ』に続き、商品動向リサーチⅡでは、豊明花き園が2020年に取り扱った約1600品目のうち、秋・冬期の取扱金額上位の150品目の植物を学習する。商品動向リサーチⅠで学習した150品目を合わせた、300品目について、デジタルデータベースを作成する。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> MSエクセルにて、データベースを作成できる。 秋・冬期、上位150品目について、学名や原産地や特徴や管理方法などを知る。 										
授業外の学習	小売店、ガーデンセンター、公園の花壇において花の名前を意識して見ておくこと。										
評価方法	データベースの作成成果(20%)、試験(80%)										
教科書	『園芸大図鑑』(ブティック社)										
参考書											
関連する資格	—										
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
実習・演習の進め方	『商品動向リサーチⅠ』で学習した秋・冬期150品目に続き、春・夏期のみが登場する上位100品目を加えた250品目のリストが渡され、日本ライン花木センターでリストの植物を探し撮影して、MSエクセルにて250品目のデータベースを作成する。最後に250品目について、写真から植物名を同定する確認試験を行う。										
回	時間数	項 目	授業内容							担当教員	
1	4	花木センターでの写真撮影 (10月:秋の植物)	秋の植物の調査、撮影(目標50品目)							井上	
2	2	データベース作成、植物調べ	データ整理、google lensの使い方							井上	
3	4	花木センターでの写真撮影 (11月:晩秋の植物)	秋、冬の植物の調査、撮影(目標40品目)							井上	
4	2	データベース作成、植物調べ	データ整理、画像処理等、図鑑による植物調べ							井上	
5	2	花木センターでの写真撮影 (1月:晩秋の植物)	新春の植物の調査、撮影(目標10品目)							井上	
6	1	試験	筆記試験							井上	
特記事項	デジカメ(スマートフォン可)、USBメモリ等が必要										
学生へのメッセージ	『商品動向リサーチⅠ、Ⅱ』で、1年かけて多くの植物に触れ、若いうちに集中して植物を覚える経験は非常に貴重なものです。										

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs				
商品開発演習		○井上 守☆					  				
授業形態	演習	開講時期	1年 後期	時間数	30	区分	選択	分野	マーケティング		
背景と目的		商品開発は商品企画とは似て非なるものである。商品企画とは、独自のアイデアで潜在的なニーズを掘り起こし、実現すべきモノ・コトの内容を考え、その実現に向けて計画を立てることで、商品開発は、商品企画で出来上がった企画を、資金面、物流面、時間など現実的な条件を加味して、実際に商品として形にすることである。本科目では、学校での自身の学習活動の中から、テーマを見つけ商品企画を行い、SWOT分析など活用し、リアリティのある商品開発に挑戦する。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・園芸業界での商品開発の実際を知る。 ・商品企画から、商品開発までの流れを知る。 ・学校での学習活動の中から、アイテムを見つけ商品提案ができる。 									
授業外の学習		園芸店やホームセンターなどの園芸商品の中で、斬新な提案に着目する。									
評価方法		取組姿勢(20%)、プレゼンテーション(80%)									
教科書		—									
参考書		『センスは知識からはじまる』(朝日新聞出版)									
関連する資格		商品プランナー、商品開発士									
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
実習・演習の進め方		園芸業界の見本市に積極的に参加すること、県内生産者をSWOT分析することで、商品開発の実際を知ることから、自身の商品開発につなげていく。									
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員			
1	2	商品企画①	ターゲットの絞り込み(セグメンテーションとポジショニング)					井上			
2	2	商品企画②	「顕在ニーズ」と「潜在ニーズ」					井上			
3	2	商品開発①	シーズの整理とSWOT分析					井上			
4	8	学外視察 豊明花きトレードフェア 見学	日本最大の花きトレードフェアに参加。全国の優良生産者の商品展示から、流行の最先端の植物やその品質を学習する。					井上			
5	2	トレードフェア報告会	各自のテーマに応じた発表					井上			
6	4	商品開発②	現地調査(県内花き生産者を訪問しSWOT分析)					井上			
7	4	商品開発③	現地調査(花き生産者を訪問しSWOT分析)					井上			
8	4	商品開発④	分析結果の発表					井上			
9	2	プレゼンテーション	商品開発案の発表					井上			
特記事項		豊明花きのトレードフェア視察が日程調整がつかない場合は更する事もあります。									
学生へのメッセージ		中国の古いことわざに「心ここに在らざれば、みえども見えず、・・」という一節があります。商品開発で一番重要なのは、まさにこのことです。発想を柔軟にして心のアンテナを張り巡らすことです。									

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
キャリアデザイン I		○佐藤 智茂☆、今西 良共☆、田子 希羊加☆(非常勤講師)、高木 雄基☆(非常勤講師)、安保 有美☆(非常勤講師)									
授業形態	講義	開講時期	1年	時間数	30	区分	必修	分野	マネージメント		
			後期								
背景と目的		人生100年時代を生きる若者は、働き方もこれまで標準(モデル)とされている形態から大きく変化する可能性が指摘されている。 学生が自らの勤労観や職業観を育み、進級卒業に向けて学業とともに就職活動へ積極的に取り組めるようになること、ひいてはより良い働き方、生き方を考える契機となることを授業の目的とする。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・自身の現在の『社会人基礎力』を知る。 ・多様なキャリアを持つ人々の話に触れることを通し、自らの勤労観や職業観を習得する。 ・就職活動の準備を円滑に行えるようになる。 									
授業外の学習		『1週間の活動履歴ポートフォリオ(学習活動日記)』の記入→提出→返却(見返し)									
評価方法		取組姿勢(40%)、提出物(40%)、小テスト(又は課題レポート)(20%)									
教科書		—									
参考書		—									
関連する資格		—									
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
回	時間数	項 目	授業内容							担当教員	
1	2	導入講義	職業人生(キャリア)を描く(デザイン)するとはどういうことなのか考える							佐藤	
2	2	社会人基礎力診断受検	社会人基礎力の解説、試験内容説明、診断受検							佐藤	
3	4	社会人マナー講座	社会人として身に着けておきたいマナー							田子	
4	2	働くことへの視点①	働くこととキャリアの展開について考察							佐藤	
5	2	働くことへの視点②	著名な起業家のスピーチを通して、働くこととキャリアの形成について考察							佐藤	
6	2	社会人基礎力診断の振り返り	診断結果の確認とワークシートの作成							佐藤	
7	2	金融リテラシー	「稼ぐ」、「使う」、「備える」							佐藤	
8	2	人生設計シミュレーション①	生活設計プラン疑似体験(～30代まで)							佐藤	
9	2	人生設計シミュレーション②	生活設計プラン疑似体験(～60代まで)							佐藤	
10	2	職業圏芸人になる①	アカデミー卒業後の私のキャリア①							安保	
11	2	職業圏芸人になる②	アカデミー卒業後の私のキャリア②							高木	
12	2	就職活動について①	就職活動に関する情報提供①(スケジュール等全般的な流れ)							佐藤	
13	2	就職活動について②	就職活動に関する情報提供②(自己分析・会社説明会、ES等)							佐藤	
14	2	学長講義	『私の職業人生』							今西	

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
起業・経営シミュレーション		○佐藤 智茂☆									
授業形態	講義	開講時期	1年	時間数	30	区分	必修	分野	マネージメント		
			後期								
背景と目的		経営(英語ではマネジメントと言います)という言葉には「人と人が協力して行う活動をよりよいものにするための工夫」という意味があります。卒業後に社会人の一員として勤労を通して事業活動を担い、そして工夫を実践するために必要な学問である『経営学』の基本的な知識を学びます。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 経営学の基本的な知識を習得する。 企業、組織の経営について、経営学の基本的な理論を用いて考えることができる。 									
授業外の学習		新聞を読み、社会経済の動静に関心を持つよう努めること。									
評価方法		取組姿勢(30%)、小テスト(30%)、試験(40%)									
教科書		—									
参考書		『イチから学ぶビジネス[改訂版]—高校生・大学生のための経営学入門』(創成社)									
関連する資格		—									
											※☆のある教員は実務経験有り
授業計画											
回	時間数	項 目	授業内容						担当教員		
1	2	経営学の要点①	経営学の歴史						佐藤		
2	2	経営学の要点②	『経営資源』とは何か						佐藤		
3	2	会社を理解する①	株式会社の成り立ちと仕組み						佐藤		
4	2	会社を理解する②	「株式会社をつくらう！」①						佐藤		
5	2	会社を理解する③	「株式会社をつくらう！」②						佐藤		
6	2	会社を理解する④	協力して活動し目的を達成する『組織』						佐藤		
7	2	会社を理解する⑤	動機付け、リーダーシップ、組織のかたち						佐藤		
8	2	市場を理解する①	マーケティングの基本(歴史、顧客、3C)						佐藤		
9	2	市場を理解する②	マーケティングの基本(STP、4P)						佐藤		
10	2	市場を理解する③	マーケティングの基本(ケース教材を使ったディスカッション)						佐藤		
11	2	会計を知る①	会計と説明責任(記録、報告)						佐藤		
12	2	会計を知る②	決算、決算書						佐藤		
13	2	会計を知る③	決算書と経営分析						佐藤		
14	2	まとめ	これまでのふり返り						佐藤		
15	2	試験	筆記試験						佐藤		
特記事項		参加者全員で双方向的な授業を行います。問いかけや議論では積極的な発言を望みます。									
学生へのメッセージ		松下幸之助(パナソニック株式会社創業者)は「個人の人生も家庭生活も1つの『経営』である」と捉えています。私たちがより良く生き、働くために活かす『経営』学を学びましょう。									

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs		
園芸色彩学		○井上 守☆、荻原 温子☆(非常勤講師)、 吉田 久美子☆、相田 明、林 誠☆					  		
授業形態	講義	開講時期	1年 後期	時間数	30	区分	選択	分野	文化・利用
背景と目的		<p>成熟社会を向かえ、企業は商品の品質や性能を高めるだけでなく、商品のデザイン性を高める事が販売につながる事に気付き始めている。今後経営に求められるものが、理論、効率に代表されるサイエンスから、感性や美意識によるアートになることが予想される。そこで、本科目では商品デザイン力を高めるために、デザインの基礎である色彩について、商品デザインと造園空間に特化した色彩について学習する。</p> <p>園芸専門のカラーコーディネーターを招聘して色彩の基本的な理論から、ブーケ制作、造園と色彩テーマにした事例を学習などを通して園芸における色彩を総合的に学ぶ。</p>							
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・色相環とトーン、配色方法など基本的知識を知っている ・色彩心理に基づいたカラーマーケティングを学び、ニーズに合う売れる商品作りに生かせる。 ・パーソナルカラー、フラワーセラピー等から自分自身を色で知り、色彩の力を知る。 							
授業外の学習		店舗の装飾、企業広告の色使いなど、日頃から色彩を意識すること。							
評価方法		取組姿勢(20%)、筆記試験(80%)							
教科書		テキストを配布							
参考書		—							
関連する資格		色彩検定協会 色彩検定3級							
※ ☆のある教員は実務経験有り									
授業計画									
実習・演習の進め方		<p>フラワーカラーセラピーでは、実際にアレンジメントを制作します。</p> <p>植物カラーコーディネート実習においては、植物に合う鉢色を選択し商品を作成させて、コンセプトを発表します。</p>							
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員	
1	4	園芸における色彩とは	色彩とは？ 今後の園芸における色彩の重要性について 園芸におけるカラーコーディネート					荻原	
2	4	カラーマーケティング	人の嗜好と売れる色彩 植物の色が及ぼす生理的・心理的影響					荻原	
3	4	パーソナルカラー	人に似合う色を知る。ブライダルフラワーカラー					荻原	
4	4	フラワーカラーセラピー実習・花色心理	フラワーカラーセラピーによるフラワーアレンジ制作。作品の観察、深層心理分析					荻原	
5	4	植物カラーコーディネート実習	カラーチャートによる植物の色の”虫の目観察“ ・鉢色の違いによる商品性実習(24色ポリポット、花苗使用)					荻原	
6	4	花色とラッピング	イエローアンダートーンとブルーアンダートーン イメージワードから受ける色による花束&ラッピング					吉田・林	
7	4	造園空間における色彩	庭園、公園、景観における色彩の考え方 景観法と景観色彩ガイドライン、色彩計画					相田	
8	2	試験	筆記試験					井上	
特記事項		カラーチャート、ノリ、ハサミ、切花用ハサミが必要。							
学生へのメッセージ		園芸分野に特化した色彩学は全国でも珍しい授業です。園芸専門のカラーコーディネーター荻原講師は、花き生産者や花き関連企業のデザインアドバイザーとしての実績が多数あり、業界関係者(プロ)が学ぶ先生です。							

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs				
いけばな		○片倉 佳容☆(非常勤講師)					3	4	9	12	
授業形態	実習	開講時期	1年 後期	時間数	15	区分	選択	分野	文化・利用		
背景と目的	いけばなは1000年以上の歴史を持つ日本の伝統的な園芸文化でありながら、現代はいけばなを楽しむ人や伝統を受け継ぐ人が減少している。 本科目では伝統的な園芸文化であるいけばなを専門講師から基礎を学び、実際に制作する事によって、いけばなの精神性や芸術性に触れその魅力を継承することを目的とする。										
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・いけばなの歴史を知る。 ・いけばなの基本的実技を習得する。 										
授業外の学習	園芸において、日本文化に関りの深いニュースや新聞記事には注目しておくこと。										
評価方法	取組姿勢(50%)、制作物(50%)										
教科書	—										
参考書	『池坊花傳書 入門』(華道家元池坊総務所) 『現代いけばな花材辞典』(草月出版)										
関連する資格	池坊入門										
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
実習・演習の進め方	デモンストレーションを参考にいけばなを生ける。										
回	時間数	項 目	授業内容						担当教員		
1	4	いけばなの基本	時代、文化、建築の変化といけばなの関り 花材の見つめ方、花と人の心の触れ合いと自然との対話						片倉		
2	4	自由花 一種生け	花材の特性を生かした創作 池坊生花の一種生けの花型と種類						片倉		
3	4	季節のいけばな 二種生け	行事のいけばな 池坊生花の二種生けの花型と種類						片倉		
4	3	三種生け まとめ・試験	池坊生花の三種生けの花型と種類 花材の特性を生かした創作、評価						片倉		
特記事項	実習にふさわしい服装で受講してください。										
学生へのメッセージ	日本の誇るべき『いけばな』を受け継ぎ、継承していきましょう。										

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs			
園芸福祉論・実習		○相田 明、石神 洋一☆(非常勤講師)、 吉長 成恭☆(客員教授)					   			
授業形態	実習	開講時期	1年	時間数	30	区分	選択	分野	文化・利用	
			後期							
背景と目的		農業や園芸には、環境保全や生活の楽しみ・文化を担うといった側面がある。これらの多面的機能を利用した園芸療法や園芸福祉は、人々に楽しみや癒しを与え、QOL(生活の質)の向上に役立つ。本授業では講義と実習によりこの分野の理解を含め、実際の活動を主体的に展開するための知識と計画立案について学ぶ。								
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・園芸福祉の全容を理解する。 ・園芸福祉プログラムを立案することができる。 ・初級園芸福祉士の受験資格を得る。 								
授業外の学習		園芸福祉の考え方を普段の生活に取り入れること。								
評価方法		取組姿勢(50%)、提出物(50%)								
教科書		『園芸福祉入門』(創森社)								
参考書		『バイオセラピー学入門』(講談社)								
関連する資格		初級園芸福祉士								
※☆のある教員は実務経験有り										
授業計画										
実習・演習の進め方		基本的に2コマ連続で授業を実施し、1コマ目は講義、2コマ目は実習を行う。								
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員		
1	8	園芸福祉の活動とは、活動を地域のなかに普及する	その活動と現代的意義、園芸福祉と心身への効果、園芸福祉とボランティア、活動プログラム立案					石神・相田		
2	4	植物をよく知り活用しよう	園芸福祉・園芸療法で使う植物の種類と育て方、レイズドベッド(立ち上げ花壇)					相田		
3	4	誰もが楽しめるプログラム	年間を通じて楽しむ園芸福祉					相田		
4	4	ハーブの利用方法	ハーブの種類と栽培方法と利用方法、ドライハーブを利用したセッション					相田		
5	4	アロマセラピー	アロマセラピーの歴史・効能・精油、精油を利用したセッション					相田		
6	4	実践プラン発表	課題発表					相田		
7	2	コミュニティづくりに生かす	様々な園芸福祉活動					吉長		
特記事項		単位取得者は、初級園芸福祉士養成講座認定校修了証が交付され、初級園芸福祉士の受験資格を得ることができる。受講者は受験することを目標とする。試験日は2月中旬の予定である。								
学生へのメッセージ		園芸福祉とは農園芸活動を通じた幸福の追求です。今後の活用が期待される分野です。								

科 目		担当教員(○主担当)						主なSDGs			
植物管理基礎実習Ⅱ		○前田 宝秀、白田 浩通、吉田 久美子☆、林 誠☆、 相田 明、新井 俊宏☆、井上 守☆、佐藤 智茂☆									
授業形態	実習	開講時期	1年	時間数	30	区分	必修	分野	植物管理		
			後期								
背景と目的		花き生産・花き装飾・造園緑化の各分野において、四季を通じて植物を管理するための知識および技術は必ず習得すべきものである。 本科目では、秋・冬期における生産温室、学内花壇、庭園、その他各種花飾り等の日常管理を行うことで、園芸植物管理に不可欠な基礎的技術と知識を習得する。									
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・秋・冬期における植物の種類による管理方法の違いを理解する。 ・秋・冬期における灌水技術を習得する。 ・秋・冬期における温室の管理技術を習得する。 									
授業外の学習		<ul style="list-style-type: none"> ・実習前に、当日及び翌日の天気予報を必ず確認すること。 ・実習後に週間レポート用紙に当日の気温、天気、実習内容、疑問に思ったこと等を記入すること。 									
評価方法		取組姿勢(80%)、レポート(20%)									
教科書		—									
参考書		—									
関連する資格		—									
※☆のある教員は実務経験有り											
授業計画											
実習・演習の進め方		原則1週間(水曜日～翌週火曜日)を単位として管理実習を行う。学生の班編成を行い、年間計画を作成して実習を行う。学生の班編制は、季節の実習内容や管理するエリア等を考慮して人数を決める。担当教員が植物管理について指導を行う。									
回	時間数	項 目			授業内容				担当教員		
1	4	植物の種類と管理			植物の種類に応じた管理方法				週担当教員		
2	4	土壌と灌水①			土壌の性質と水管理				週担当教員		
3	4	土壌と灌水②			自動灌水と手灌水による管理技術				週担当教員		
4	4	植物の生長・開花①			環境(温度・光・水・風)の変化による植物の生長の違い				週担当教員		
5	4	植物の生長・開花②			植物の特性に応じた環境調節(遮光、保温、暖房等)技術				週担当教員		
6	4	植物の総合管理			花殻摘み・除草などの植物維持管理技術、病害虫の種類と生態				週担当教員		
7	2	秋・冬期の植物管理方法			秋・冬期の各エリアの植物管理方法(講義)				週担当教員		
8	4	エリア整備			各エリアの整備を通じた、環境美化意識の向上				週担当教員		
特記事項		年間計画に基づき、おおむね1週間の実習を複数回行う。 祝日及び長期休暇期間中も行う。 実習時間は10月の平日は朝8時から8時45分、夕方16時35分から17時05分まで、11月以降の平日は朝8時15分から8時45分、夕方16時35分から17時05分までとする。祝日及び長期休暇期間中は朝8時30分から9時、夕方16時から16時30分までとする。									
学生へのメッセージ		まずは植物を「枯らさない」ことに始まり、「美しい状態」で維持管理する技術の習得を目指します。灌水の技術だけでも3年かかってやっと習得できるという意味で、「水やり三年」という言葉があります。植物の日常的な管理は日々の経験の積み重ねが大切ですので、コツコツと頑張りましょう。									

科 目		担当教員(○主担当)					主なSDGs		
インターンシップ I		○各コース担当教員					  		
授業形態	実習	開講時期	1年 後期	時間数	120	区分	必修	分野	就業体験
背景と目的	本科目では「就職や勤労に対する意識」を涵養し、社会人として「自分に足りないもの」を自覚し、今後の学習意欲の向上を図ること、また「実際に仕事に臨むための姿勢や態度」を体感し、今後の進路・職業選択に役立てることを目的とする。								
到達目標	・受入先企業・団体等の業種の全般的な仕事内容に関して、体験に基づいた知見を習得する。								
授業外の学習	返却された『日報』をしっかりと通読する時間を設け、自らの体験学習を振り返ること。								
評価方法	受入先企業評価(40%)、日報(40%)、報告会(20%)								
教科書	—								
参考書	—								
関連する資格	—								
									※☆のある教員は実務経験有り
授業計画									
実習・演習の進め方		①担当教員と十分な事前相談→②受入先企業・団体の指導の下で10日間の就業体験→③報告会へ向けての振り返りと資料づくり→④報告会で発表							
回	時間数	項 目	授業内容					担当教員	
1	2	ガイダンス・事前準備	インターンシップに関する説明・受け入れ企業の検討					各コース 担当教員	
2	8	インターンシップⅢ報告会	インターンシップⅢ報告会への参加					各コース 担当教員	
3	80	インターンシップ実施(10日間)	受入先企業・団体等での業務に従事(実習)					各コース 担当教員	
4	20	報告書とりまとめ	報告書とりまとめと報告会資料作成					各コース 担当教員	
5	8	報告会	プレゼンテーション形式による発表と参加					各コース 担当教員	
6	2	事後指導	発表会のふり振り返りと報告書の見直し					各コース 担当教員	
特記事項	受入先企業・団体等の選定や事前の準備など、専攻するコースの教員と十分に相談を行うこと。 「業務従事中は受入先企業等の一員である」意識を持ち、ビジネスマナーに留意すること。また実習時の怪我や器物の破損など、事故のないよう十分に注意すること。 報告会では、他の発表者に質問するなど積極的に参加すること。								
学生へのメッセージ	長期間の業務従事は初めてという学生も多いと思います。自分なりのテーマを考え、仕事の大きな流れを体感し、今後の学習活動で学びべき課題を持ち帰ってきてください。								